

投句欄 自由律の泉 ㉗ 〈再掲〉

金澤 ひろあき

太陽を抱く繭眠る
イノチ アタカナ

1 晴天に満月 戰争は愚かだと世を照らす

部屋 慈音

北風の立喰おにぎり

野谷 真治

2 怖くない生きた分だけ死んできた

泥谷 文吾

明日もまた生きるのか星降る夜を覚めている

久光 良一

3 タオルからフツと朝の香

田中 直心

着ぶくれてほっこり笑顔露の薹

植田 鬼灯

4 今が終らない杖が歩く

富永 島山

店の人怒鳴つている人の悪く見える

無 一

5 しらないひしらないしひとり

平林 吉明

着ぶくれてほっこり笑顔露の薹

アカホリ フキ

6 思い出になりそうな母の巾着

佐川 智英実

初恋を隠しておきたい月のうら

原 さつき

7 紙きれが鳥になつた強い風

富永 順子

つめたくなつた手 はなさない

雨 水

8 神話の冤罪をはらす星の自爆

一の橋 世京

誰もがしつぽ持つてゐるが我慢してゐる

鈴木 和枝

9 「観」 て いる先は生きて いるのですね

大岳 次郎

誰もがしつぽ持つてゐるが我慢してゐる

竹内 朋子

10 御神木の枝しか無くても大きい影

木村 浩

桜いっぱいなのに 悲しい事ばかりの地球

増田 壽恵子

22	あーこの空気もう春が来ている	山本 説子
23	寝ようとする今日がもつたいない	青井 こおり
24	新緑の風に任せて散る覚悟	新山 賢治
25	今まさに飛び立つ用意綿毛と私	ちば つゆこ
26	一緒に笑える花が咲いた	荻島 架人
27	これが姉花びらのような骨片拾う	黒瀬 文子
28	通過駅の川べりにも桜満開	平岡 久美子
29	視力2・0見えない世界多すぎて	井尾 良子
30	鳥の轟き響き渡りハンカチの木揺れわたる	白松 いちらう
31	詐報はなぶぶき見失った何かをさがす	原 鈴子
32	川の流れひばりが上がる知る人もないふる里	佐瀬 風井梧
33	初ものもペックなりしか西瓜食む	湯原 柳泉洞

● 紹より

「第4回自由律の泉賞」の開催に伴い、今回は通常の「自由律の泉」はお休みとさせていただきました。次回は通常通り、皆様の作品一句と、再掲した「自由律の泉⑦」の作品の感想をお寄せください。左記宛て、同封の投句用紙、またはメールにて。

〈送り先〉〒193-0832 八王子市散田町2-58-4

平岡久美子

メール izumi.jiyuritsu@gmail.com

※投稿先のメールアドレスは「@」になっています。

〈締め切り〉 2025年 11月15日

★「自由律の泉」に)投稿いただいた句や感想は、自由律俳句協会のホームページや公式X、機関誌などでも紹介させていただきます。

※以上、前回の「自由律の泉⑦」に掲載した投句です。